



今号の特集

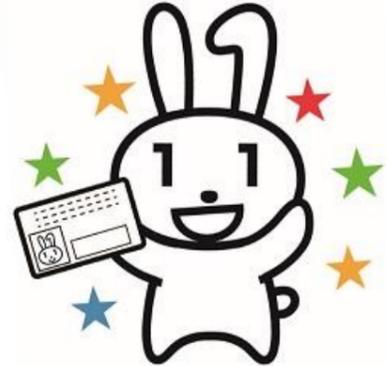
DMAT（災害派遣医療チーム）
のおはなし

2024年
6月

⚠️ ご注意ください！
本年12月2日から
現行の健康保険証は
発行されなくなります

※12月2日時点で有効な保険証は最大1年間有効です

**マイナンバーカード
をご利用ください**
今回お持ちでない方は次回ご持参ください



マイナンバーカードの保険証利用登録がまだの方
➡️ 利用登録は窓口（カードリーダー）でできます

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

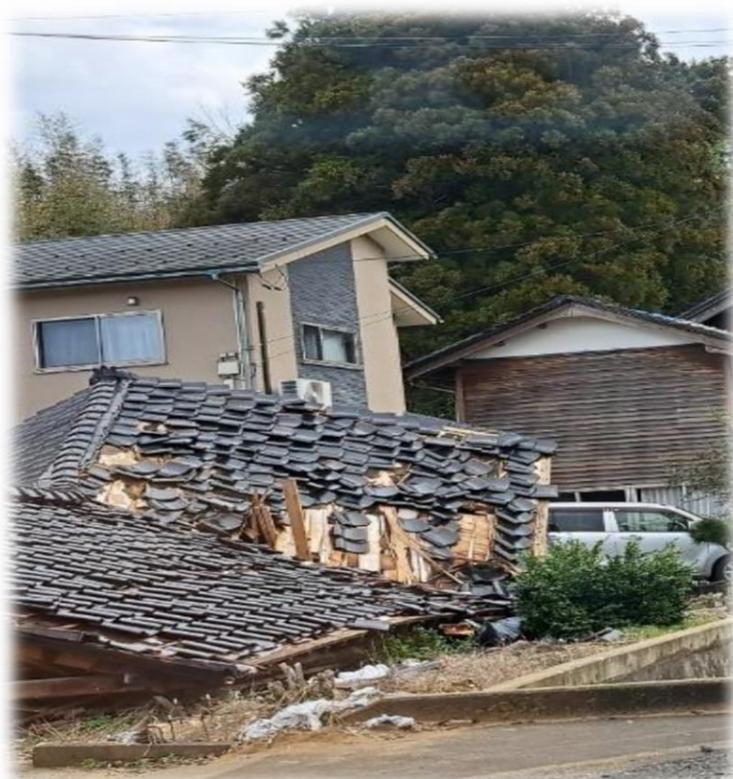




☆扇野医師

一月下旬に七尾市で四日間の支援活動を行いました。水道不通や交通の支障が残る中、避難所巡回やニーズの把握を行いました。急性期外傷はなかったものの、感染症やADL（日常生活動作）低下等の課題に対応しました。各避難所が異なる問題を抱え、地域に合わせた支援の難しさを実感しました。

私たちが被災した場合もライフラインや地域連携については懸念があり、平時からの災害対策立案や訓練の重要性を再認識しました。



☆大森技幹（看護師）

今回、DMATとして9年前の茨城豪雨災害に続き2回目の派遣でした。これ以外にも阪神淡路大震災や東日本大震災にも看護師として現地で従事したことがあります。

—このような経験から看護師として被災者に寄り添い、その時その場所で出来る事は何かを考え判断し対応していく事が大切だと感じています。また、避難所が自宅近くの公民館や学校などの場合、日頃からの近所付き合いといった人間関係は大切であると痛感しました。

今後の災害時医療として、平時から身近なスタッフには自宅の安全対策の重要性を伝えつつ、夜勤体制のように少人数をイメージした業務、組織的には集中治療室・手術室の経験者を洗い出すなどしてデータベース化し、いざという時に支援体制を構築するなどを考えています。なくてはいけないと感じています。



☆上村薬剤師(業務調整員)

今回、私たちは急性期ではなく慢性期から通常期への橋渡し期間での活動となりました。急性期とは異なり、慢性期における地域保健医療での課題に直面しました。

現場では医療従事者のマンパワーも限られている中で多くの課題もありましたが、各医療チームとの連携によつて、知恵を出し合いながら乗り越えることができました。貴重な経験をさせていただきました。

今後は災害への備えを十分おこなうとともに、いざ災害が起こったときに協力しあう仲間とのコミュニケーションシヨンづくりの必要性を感じました。



☆堀職員(業務調整員)

☆石川職員(業務調整員)

現場である石川県七尾市では当院が所有している救急車で活動をしました。道路状況は積雪や路面の凍結による影響により、細心の注意を払いながらの運転でしたので肉体的というより精神的に過酷な状況であったことは間違いありません。

一方で簡易トイレ、アルファ米といった非常食、ポータブル電源といった自活での活動には欠かせない物品が準備できていたことは有効的であったと考えます。

こうした突発的な活動には、やはり訓練等で日頃から顔が見える関係を構築しておくことが必要であるとともに、いつ起こり得るか分からない災害を想定して兵站部門における準備行動や隊員を安全に輸送できる運転訓練の必要性を痛感しました。

